## オンライン英語授業における 学習者間の連帯意識を高める工夫と検証



創価大学教育学部 山内 豊 yutaka@soka.ac.jp



# アウトライン

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 方法
- 5. 結果
- 6. 考察
- 7. グループ活動の重要性の検証
- 8. 今後の課題
- 9. まとめ

参考文献



# 1. 背景

- コロナ禍でオンライン授業が増加
  - ▶オンライン授業 → 学習者が孤立感をもちやすく、学習効果が上がりにくい
- ・オンライン英語授業 → 音声コミュニケーションが重要
  - ▶オンライン授業では、音声のやり取りがむずかしい
  - ▶教員と学習者,学習者同士のインタラクションがむずかしい
- 英語授業はオンラインでの実施は困難とよくいわれる

## 2. 目的

- ① オンライン授業で学習者が孤立感や孤独感をもたないようにする工夫を検討する
- ② そのような工夫をオンライン英語授業で継続的に実施 し,学習者の意識を,授業効果,および,学習者間の 連帯意識を中心に調査する

# 3. 先行研究

### <具体例①>

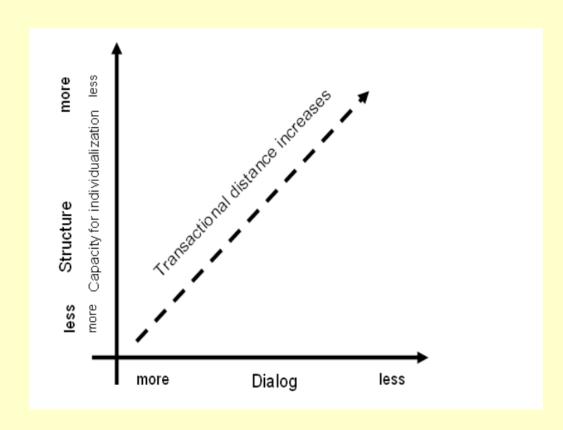
Zoomなどで、教員がPPTを示し、PPTの内容を説明し続け、最後に質疑応答の時間を設定して終了 (同期型、非同期型)

### <具体例②>

- ・上記に、学習者同士で議論したり、問題解決していくグループ活動を取り入れる、グループ活動した内容を発表する、学習者同士でコメント・評価する
- ・ 遠隔授業における学習者をめぐる要因
  - ① 対話
  - ② 構成の柔軟さ
  - ③ 学習者の自律性

## 交流距離理論

- Moore (1993) は、「遠隔授業における学習者の心的距離は、物理的距離よりも交流距離が重要であり強い影響を及ぼす」という交流距離理論(Theory of transactional distance)を提唱
- 交流距離を構成する重要な3要素として、 対話(dialog),構成(structure),学習者の自律性 (autonomy)
- 教員と学習者の対話が多いほど,また,学習目的や教授 法や評価法等の構成が学習者に適するような柔軟なもの になっているほど,交流距離は短縮され,効果的な遠隔 学習が実現される。
- 一方, <u>交流距離が大きいほど</u>, <u>遠隔学習は困難</u>となり, 学習者の自律性がより強く要求される



## オンライン英語授業での工夫

#### 1. 対話

- ① 教員と学習者,学習者同士のインタラクションを増やす
- ② 教員からの学習者への対話的提示(Google スプレッドシート)
- ③ 学習者同士のグループ活動(調べ学習、協働作成、リハーサル、発表)
- ④ 発表グループとクラス全体の対話
- ⑤ 聞き手が参加できる工夫 (クイズ, WEB相互評価アンケート)

### 2. 構成の柔軟さ

▶発表スライドや発表内容・構成の自由度、プロジェクト型学習の採用

### 3. 学習者の自律性

- ① 最も興味関心の高いトピックの選択
- ② 相互評価への参加

# 4. 方法 (対象)

### 対象

▶コロナ禍のため北海道から九州まで、さまざまな地域の実家からオンラインによるプロジェクト型の「英語科教育」の授業をオンラインで1学期間受講した大学生(64名 20代中心 TOEIC 300~900台)

### • 「英語科教育」

- ① 小学校教員養成のための科目
- ② 小学校で英語を教えられる知識と技能を高める
- ③ 発表と小模擬授業(マイクロティーチング)などの実践も含む

# 4. 方法 (手順)

- 1. 発表テーマの提示
- 2. 学習者が最も興味関心のあるテーマの選択
- 3. テーマ選択に基づくグループ作業
- 4. 発表準備と小模擬授業の準備
- 5. PPT, 教材・指導案の協働作成 → リハーサル → 発表
- 6. オンラインによる相互アンケート評価の実施
- 7. 振り返りレポートの提出

# 発表と小模擬授業テーマ

Room		氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
1	小学校から英語を学ぶ理由(発達 段階と言語習得過程に着目して)	林睦実	原田秀幸	石井梨里子	田原光	市川弘隆	渡邊由美	吉井奏	和智海帆
2	小学校で教える内容と教材	笹島彰	田代玲	岡 正廣	岩井香織	橋本華奈	岡室美和	塩野泉水	永山未歩
3	単語の導入と指導	東亮佑	橋本みなみ	白田 裕一郎	夏田拓実	手島優美	川松遥	髙松秀雄	武藤良男
4	聞くことの指導	山田加奈恵	林琢弥	堀口七海	金光玲奈	長谷川美穂	根本由香利	南雲裕美	高岡清美
5	話すことの指導	齋藤純子	仁平冬葵	岡田みく	阿部七瑠海	伊東直人	藤生ひかる	藤井菜々子	
6	読むことの指導	並木愛香	内玲奈	是川賢一	井上愛琳	増渕孝一	矢坂誠	西村優太朗	登神黎
7	書くことの指導	山下龍一郎	金納勇真	花香康史	川津洋	家高航平	冨山晃	園部佳尋	
8	4技能を結びつけた指導	志賀清美	川畠美紀	川端桜子	吉永莉子	岩本晃琉	羽深由美子	大田裕菜	中村朱里
9	ALTを活用する指導	上山野乃花	森下泰輝	市村清美	古田美音	佐藤優里	羽鳥舞	重面俊明	滝澤洋子
10	小学生向けのテストと評価法	小川和輝	谷口誠人	和智直人	新生結子	奥脇夢佳	田島由香	土山萌菜美	二山和

# オンライン英語授業用のデザイン

1	トヒ	ピック・テーマの提示と選択	PPT & Google スプレッドシート [Excel]
2	グル	ノープ編成 (同一メンバー)	Google スプレッドシート <a href="https://onl.tw/w38MdZB">https://onl.tw/w38MdZB</a>
3	グル	vープ別活動	Zoomのブレイクアウトルーム(参加者選択、事前割当)
4		話し合い(議事録)役割分担	Google ドキュメント [Word]
5	グルー	調べ学習 → 結果の共有と保存	グループ単位のGoogle Drive [共有フォルダー]
	プゴ	PPTの協働作成	Google スライド
6 7	活動	リハーサル	Zoomのブレイクアウトルーム グループごとのZoom会議開催
8	全体	発表(小模擬授業) ペアやグループワーク 質疑応答	Zoomの録画機能 Zoomのブレイクアウトルーム (共同ホスト) Google Forms テスト・クイズ
9		相互評価	Google Formsアンケート
10		相互評価による改善/期末レポート	グループ活動 / 個別

### 交流距離の3要素とオンライン授業での工夫

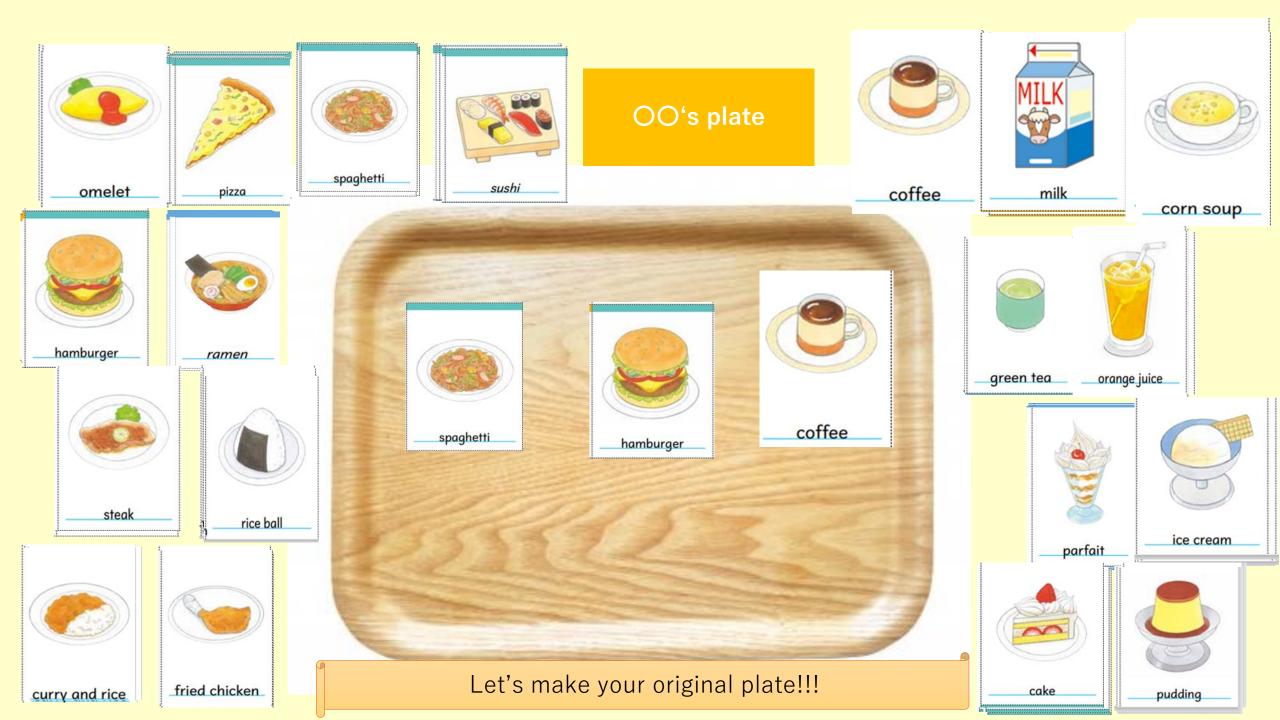
		3 大要素	<b>発表前</b> の具体的活動内容	<b>発表と発表後</b> の 具体的活動内容
1		対話	グループ内での対話:調べ学習の結果共有、発表資料、模擬授業の指導案・教材作成などについての議論、リハーサル後の反省、議事録の共同作成(Google ドキュメント)	発表グループと教員と聞き手との対話:発表と模 接授業に対する学生間の相互評価と教員からのコメント・評価
	144 15	<u>学習目的</u> の明確化	発表と模擬授業 <b>のテーマ、</b> それらに盛り込む内容の明示	模擬授業における教師役と学習者役の明確な役割 分担 (PPT資料をGoogle Drive上で常にアクセス可能に)
2	構成	<u><b>学習支援ツール</b></u> の充実	<b>同一メンバーによるグループ学習</b> (Zoomのbreakout roomの事前割当機能)協働学習ツール(Google ドキュメント, Google スライド)	Google Formsによるアンケートと即時的で視覚的なフィードバック、(Google Formsのエクセルへの自動変換機能)
3	뇓	<b>学習者の自律性</b> の促進	<b>学習者自身が最も興味・関心 のあるテーマ</b> の選択	学習者 <b>自身の選択に基づくグループ化</b> (Google スプレッドシートによる グループ化の促進

## オンライン小模擬授業と相互評価

- 小模擬授業の実施
  - 話すことの指導
  - ▶ ペアで問答しながら自分の食べ物プレートを作成
  - ① 教員による**発音練習とデモ**
  - ② ブレイクアウトルームによるペ**アワーク**(PPTワークシート活用)
  - ③ クラスから**数人のペアを指名**して確認
- 相互アンケート評価(Google Forms)

### 小模擬授業指導案(略案)& ワークシート

時間	児童の活動	指導者 (T) の活動と使用英語例
3分	前回までの単語・文章を復習・発音する	確認問題→教師の発音に続いて全体で発音練習
		教師2人がペアワーク例を示す。
2分		
	[Let's Chant!]	板書
5分	・What do you want~?を使って、互いにほしい食べ物を聞き合いペアワークをする。	A,B: Hello!
	・バイキング形式でオリジナルプレートをつくる。	A: What do you want?
		B: I want ○○.
		A: How many?
		B: Two(, please).
		―くり返す―
		A: Here you are. Your plate looks ○○.
		B: Thank you.
		・I want~を繰り返し聞いたり言ったりしながらほしいものを英
		語で表現することがねらいであるため指示代名詞や指差しの
		みを使わないように指導する。
		・机間指導をしながら、活動が進んでないペアを支援する。(必要な
		場合は日本語で支援する。)
2分	発表をする。(ランダムに選んだペア数組)	



## 小模擬授業の相互アンケート評価

- 1. 授業内容はテーマに合っていましたか授業内容はよく理解できましたか
- 2. 授業内容は対象学年に合っていましたか
- 3. 授業内の活動(アクティビティー)はあなた自身はよくできましたか
- 4. 授業を受けて英語力が高まると思いましたか
- 5. 授業を受けて英語への興味・関心は高まりましたか
- 6. この授業は楽しかったですか
- 7. 先生の説明はわかりやすかったですか
- 8. 教材をはじめ、授業準備は十分にされていたと思いますか
- 9. よい点、改善する方がよい点を1つずつ書いてください (自由記述)

## 学習者の意識調査

オンライン授業の1学期分が終了した直後、参加者の意識を調べるため、5段階のLikert scaleの質問紙調査をオンラインで実施

- ・ オンライン毎回メンバーを固定したグループ活動の中で、仲間や友達ができると思いましたか
- ・ グループで模擬授業を準備して実践するのは、英語授業の指導力を伸ばすのに役立つと思いますか
- ・ オンラインの模擬授業で身につけたことは、対面授業での模擬授業にも活用できると思いますか
- ・模擬授業に対するコメントをアンケートで発信することで、授業を注意深く聞くようになりましたか
- ・ グループでオンライン模擬授業を行う本授業は、楽しかったですか
- ・ 本授業のようなオンライン授業を、今後も受けてみたいですか。

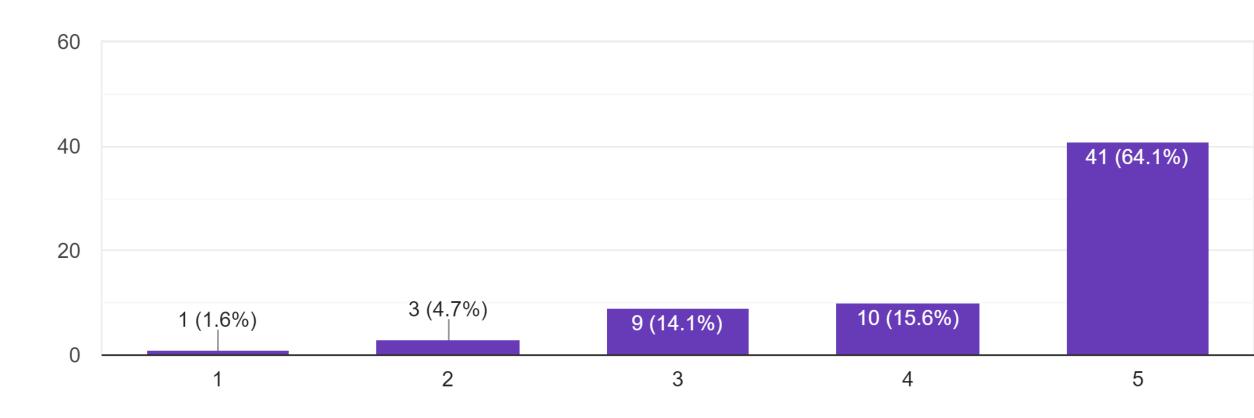
### 5. 各質問項目と結果

(授業終了直後のオンライン質問紙 Google Form)

- オンライン毎回メンバーを固定したグループ活動の中で、仲間や友達ができると思いま したか
- グループで模擬授業を準備して実践するのは、英語授業の指導力を伸ばすのに役立つと 思いますか
- オンラインの模擬授業で身につけたことは、対面授業での模擬授業にも活用できると思いますか
- 模擬授業に対するコメントをアンケートで発信することで、授業を注意深く聞くように なりましたか
- グループでオンライン模擬授業を行う本授業は、楽しかったですか
- 本授業のようなオンライン授業を、今後も受けてみたいですか

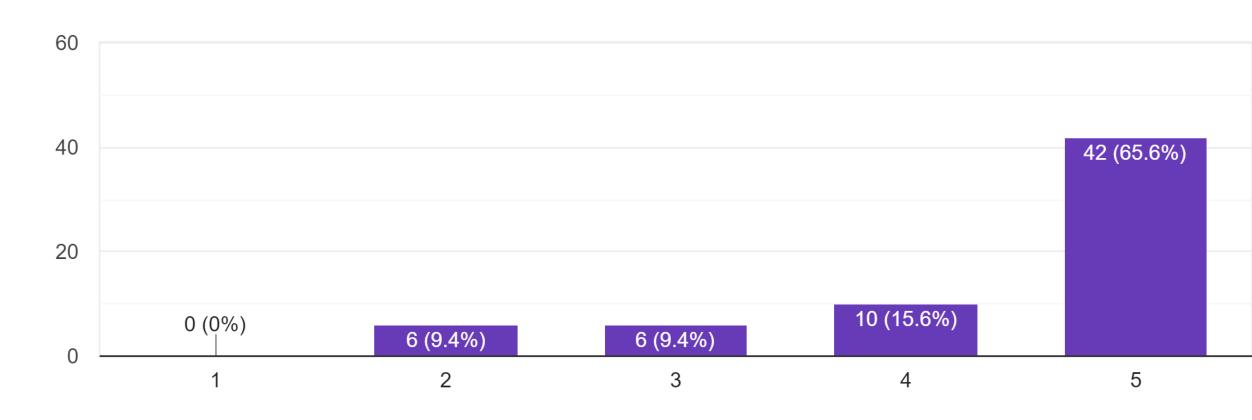
#### 仲間・友達意識の増加 孤立感の減少

毎回メンバーを固定したグループ活動の中で、仲間や友達ができると思いましたか 64件の回答



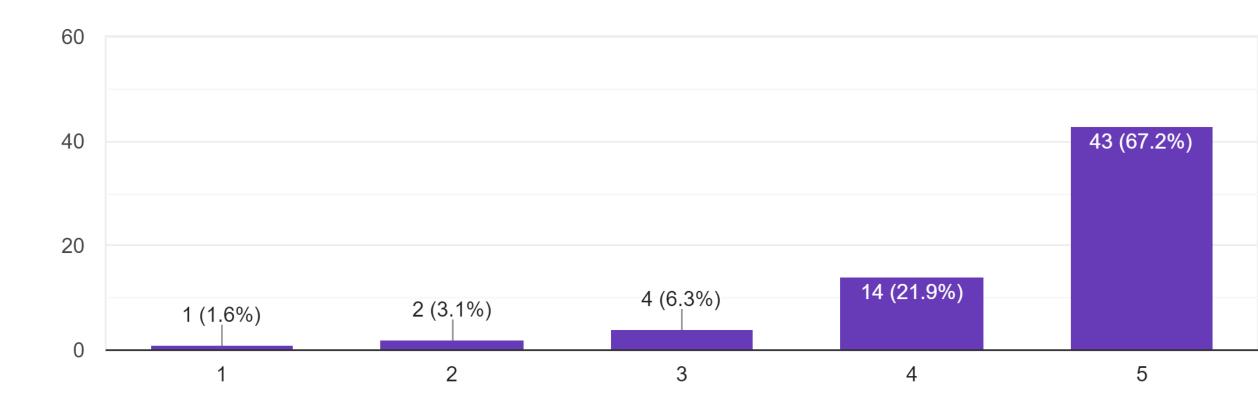
#### 英語授業の指導力への向上

グループで模擬授業を準備して実施するのは、英語授業の指導力を伸ばすのに役立つと思いますか 64 件の回答



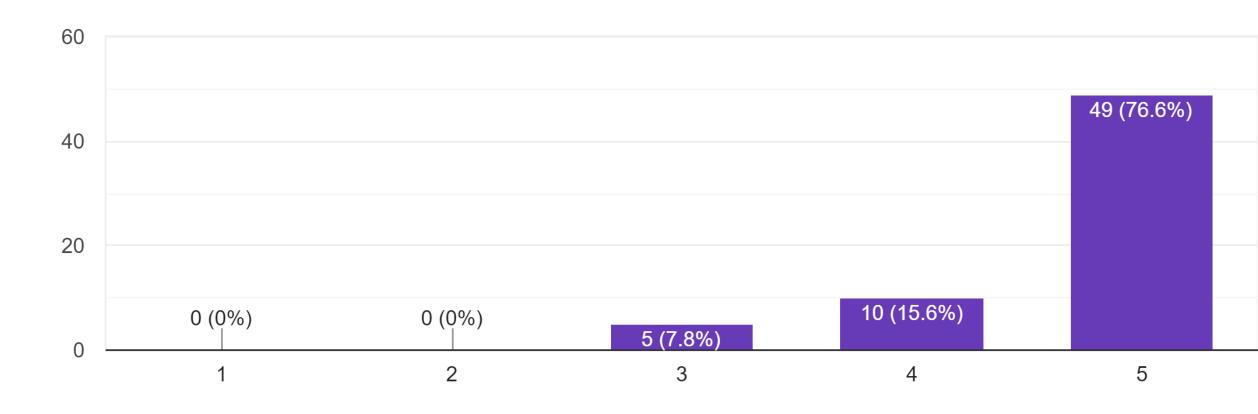
#### 本オンライン授業での学びを対面授業へ活用できるか

オンライン模擬授業で身につけたことは、対面授業での模擬授業にも活用できると思いますか 64 件の回答



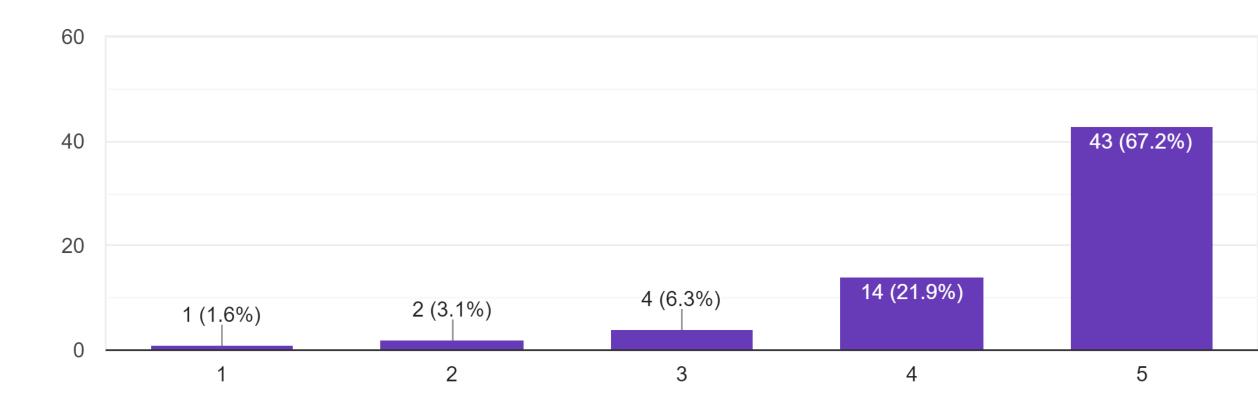
#### 相互アンケート評価の聞き手の注意力への影響

模擬授業に対するコメントをアンケートで発信することで、授業を注意深く聞くようになりましたか 64 件の回答



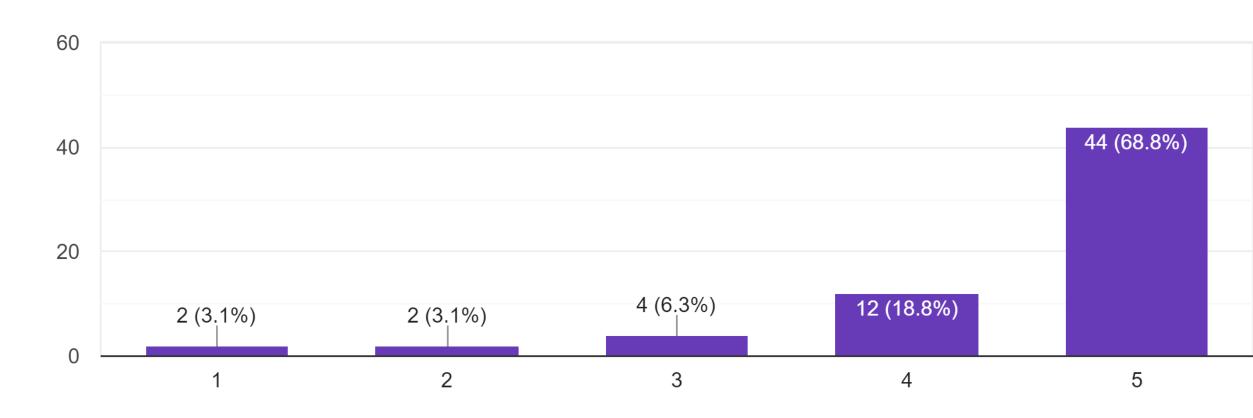
#### 本オンライン授業での学びを対面授業へ活用できるか

オンライン模擬授業で身につけたことは、対面授業での模擬授業にも活用できると思いますか 64 件の回答



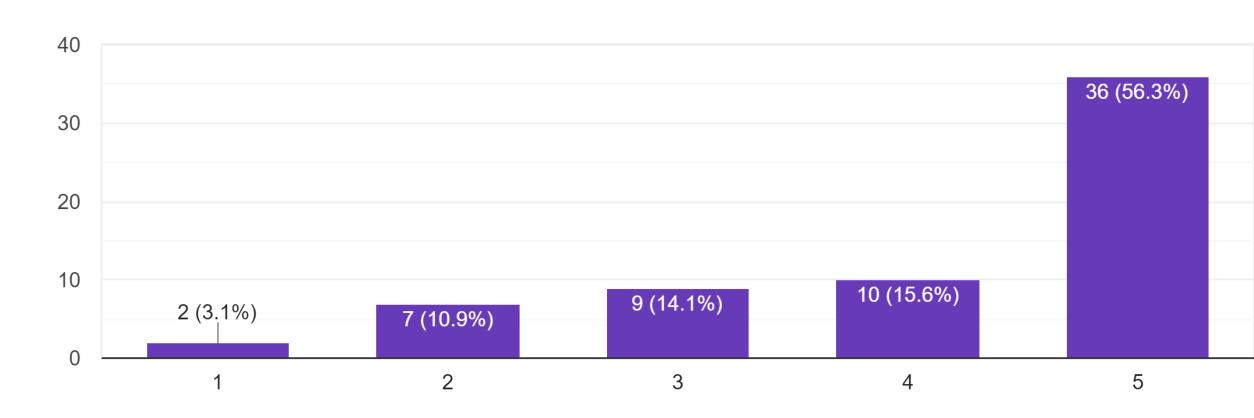
#### 本オンライン授業の楽しさ

オンラインでグループで模擬授業する授業は、楽しかったですか 64件の回答



#### 本オンライン授業の継続的受講意欲

オンラインでグループで模擬授業する授業を、今後も受けてみたいと思いますか 64 件の回答



## 6. 考察

・ <u>オンライン英語授業で対話量、構成の柔軟さ、学習者の自律性を高める工夫を取り入れる</u>ことによって → <u>交流距離が短縮</u>され、<u>オンライン授業で学習者</u>が抱きがちな孤立感や孤独感を減少させ、<u>連帯意識を高</u>めることができた

#### 1. 対話

- ① 教員と学習者,学習者同士のインタラクションを増やす
- ② 教員からの学習者への対話的提示(Google スプレッドシート)
- ③ 学習者同士のグループ活動(調べ学習、協働作成、リハーサル、発表)
- ④ 発表グループとクラス全体の対話
- ⑤ 聞き手が参加できる工夫 (クイズ, WEB相互評価アンケート)
- 2. 構成の柔軟さ
  - ▶ 発表スライドや発表内容・構成の自由度
- 3. 学習者の自律性
  - ① 最も興味関心の高いトピックの選択
  - ② 相互評価への参加

# 7. グループ活動の重要性の検証

### 背景

メンバーを固定したグループ活動は、オンライン授業でも連帯意識や授業効果を高めるために有効

### 目的

オンライン英語授業の参加者の意識(満足度)に、グループ活動は、どのくらいの影響を与えるのか

### 方法

- ① 別のオンライン英語授業を1学期間継続的に実施
- ② オンライン授業終了直後に質問紙調査を実施
- ③ オンライン英語授業の満足度に影響を与える要因についての5段階の Likert scaleの質問紙調査をオンラインで実施

# 分析方法

- 従属変数 (DV): 参加者の満足度 (総合評価, 再履修希望度)
- · 独立変数 (IV):
  - ① 参加者のTOEIC試験得点による英語熟達度,
  - ② ネットワーク環境,
  - ③ ICT技能の高さ,
  - ④ グループ活動の認識,
  - ⑤ WEBアンケートによる相互評価への認識,
  - ⑥ 仲間・友達の確立度合い
- ・ 以上の得点について重回帰分析を実施

## 5. 結果

- 重回帰分析の結果、<u>重相関係数(R)は.784,重決定係数(R<sup>2</sup>)は.615</u>となった
- ・ 英語熟達度, ネットワーク環境, ICT技能の高さ, グループ活動の認識, 仲間・友達の確立度合, WEBアンケートによる相互評価への認識という 6 つの要因で、参加者の授業満足度の61.5%が説明できる
- 標準偏相関係数 ( $\beta$ ) については、 $<u>グループ活動</u>の認識(<math>\beta$  = .457, p=.030)と\_( $\beta$  = -.369, p = .020)が有意になり
- WEBアンケートによる<mark>相互評価</mark>への認識、<mark>仲間・友達の確立度合</mark>(β =.423, p =.054)と ICT技能が有意傾向(β =.248, p =.090)

Model	R	R²	Adjusted R <sup>2</sup>	RMSE	R <sup>2</sup> Change	F Change	df1	df2	p
Н₀	0.000	0.000	0.000	0.941	0.000		0	31	
H <sub>1</sub>	0.784	0.615	0.522	0.650	0.615	6.653	6	25	< .001

山内(2021b)

# 考察 (1)

- 有意や有意傾向を示した要因: グループ活動の認識、仲間・友達の確立度合いWEBアンケートによる相 互評価認識
- WEBアンケートによる相互評価:
  - ・ 学習者同士のインタラクション (評価入力時)
  - ・ 教員と学習者全体のインタラクション (結果の共有)
- ① プロジェクト型・課題解決型の英語授業での相互インタラクションの重要性を示唆
- ② この結果は、Moore (1993) が提唱する「遠隔授業では物理的距離より<u>教員と学習者との心理的距離</u>が重要である」という交流距離理論の考え方と一致
- ③ 「<u>遠隔教育で学ぶ人の満足感を予測する唯一の変数</u>は<u>交流距離(得点)</u>であった」という報告 (Weidlich & Bastiaens 2018) とも一致

# 考察 (2)

- ・参加者のTOEIC試得点による英語熟達度,ネットワーク環境,ICT技能の高さについて,標準偏相関係数は有意にならなかった
- ・原因として、英語熟達度については「英語科教育」という授業が英語の教授技能を高めることに重点を置いていたため、一般的な説明は日本語で行い、発表や小模擬授業はできるだけ英語を用いるという日英の言語を併用したため
- ・ネットワーク環境とICT技能では、授業参加者がコロナ禍のオンライン 授業にある程度慣れていて、大きな格差が出なかった可能性

# 8. 今後の課題

- ・今回の調査では、あくまでも<u>授業参加者の意識に基づいた調査</u>なので、 オンライン<u>授業の前後における参加者の授業展開技術の伸長度合いなど</u> について、<u>客観的に測定できる調査デザインが必要</u>
- Google Formsによる相互アンケートを実施するケースとそうでないケースを対照実験的に展開するなど

## 9. まとめ

- ●オンライン英語授業で<u>対話量、構成の柔軟さ、学習者の自律性</u>を高める工夫
- 対話:インタラクションの機会を増大
  - ・ 教員と学習者
  - ・ 学習者同士のやり取り = グループ活動 (補助ツール活用の協働作業)
- 構成:自由度を学習者へ提供

Google Spreadsheet, Slide, Document, Formsなど

- ・ プロジェクト型の探索学習の採用、学習テーマを学習者自身に選択させてグループ化
- 自律性:参加者中心の活動の増大
  - ・ グループでの調べ学習、発表資料の協働作成、リハーサル、発表
  - ・ 参加者同士での相互評価システムの導入

# 参考文献

- Moore, M.G.(1993) "Theory of transactional distance." In Keegan, D., (ed.), *Theoretical Principles of Distance Education*, Routledge, (pp.22-38). New York.
- 山内豊・西川恵. (2021a). 「オンライン英語科教育授業への交流距離理論の導入 と効果の検証」『外国語教育メディア関東支部研究大会発表要項』.
- 山内 豊. (2021b).インタラクション重視の同期型オンライン英語科教育授業の満足度に与える要因分析」『日本教育工学会研究報告集』3,94-97.
- Weidlich, J. and Bastiaens, T., (2018) Technology Matters: The Impact of Transactional Distance on Satisfaction in Online Distance Learning", *International Review of Research in Open and Distributed Learning*, 19(3): 222-242.